

全国視能訓練士学校協会

平成28年度教員研修会報告書

平成29年3月

平成28年度教員研修会ワーキンググループ

平成 29 年 3 月 吉日

はじめに

全国視能訓練士学校協会の教員研修会は、協会加盟校 28 校の教員の資質向上と教育指導内容の充実を図ることを目的としています。毎年、全国より教育経験豊富な教員から新人教員まで一堂に集い、学び合える貴重な時間となっています。本研修会は今回で 9 回目を迎えましたが、北海道から九州まで全国の大学・専門学校教員計 37 名にご参加いただき盛況のうちに終了いたしました。

さて、今回の教員研修は「学生カウンセリング・指導」に関わる内容を取り上げました。第 5 回でも取り上げられたテーマですが、昨年のアンケートより希望の多かったものを内容といたしました。教育講演では「1 人ひとりを大切にする学生カウンセリングのあり方」と題して臨床心理士の川島 忍先生に 3 部構成のご講演をいただきました。グループワークでは教育講演で学んだことを基に、日常遭遇し教育の質を問われる各テーマに分かれてのケーススタディとなりました。

2 日目の賛助会員によるセミナーは株式会社シードにより「虹彩付きコンタクトレンズ」と題して行われました。臨床現場では医療用の虹彩付きコンタクトレンズを患者にあわせる医療行為として視能訓練士が業務を行います。学ぶ機会が少ないだけに教員への周知として大変有益なセミナーでした。また、賛助会員による器械展示は 5 社のご協力を頂き、教育に役立つ情報提供を数多く得て、第 9 回教員研修終了となりました。

参加していただいた皆様にとって、実り多き研修となり、学校教育に少しでも活かして頂くことができれば教員研修担当者一同、幸甚です。今後も皆様のさらなるご支援、ご協力をお願いいたします。

平成 28 年度教員研修会ワーキンググループ

代表	提嶋 紀枝	(吉田学園医療歯科専門学校)
	露無 陽子	(帝京大学)
	加藤 権治	(名古屋医専)
	齋藤 真之介	(九州保健福祉大学)
	鈴木 ほまれ	(東京医薬専門学校)

目 次

第9回教員研修会プログラム	1
研修Ⅰ.教育講演	4
研修Ⅱ.グループワークと発表	16
賛助会員協賛企画	34
研修風景	36
教員研修会アンケート	40
会長総評	50
全国視能訓練士学校協会 加盟校一覧	52

全国視能訓練士学校協会

平成 28 年度 第 9 回教員研修会 プログラム

目 的

1. 視能訓練士養成施設の教育レベルの向上、教育指導方法の共有化、養成校教員個々の指導スキルの向上を目的とする。
2. 第 9 回教員研修会では教育講演とグループワークを通じて、学生カウンセリング・指導方法について学ぶことを目的とする。

受講対象者	全国視能訓練士学校協会 専任教員
開催期間	平成 28 年 8 月 18 日 (木) ～19 日 (金)
研修会場	学校法人滋慶学園東京本部 東京都江戸川区東葛西 6-7-5 滋慶ビル
研修内容	<p>研修Ⅰ. 教育講演 「一人ひとりを大切にする学生カウンセリングのあり方」 講師：川島 忍先生 (医療法人社団慶生会 滋慶トータルサポートセンターセンター長補佐/臨床心理士)</p> <p>研修Ⅱ. グループワークと発表 「学生指導のケーススタディ」</p>
プログラム	8 月 18 日 (木)
	13:00 受付開始 13:30～13:50 概略説明 14:00～16:00 教育講演 川島 忍先生 16:15～18:00 グループワーク研修、集合写真撮影 19:00～21:00 懇親会 13:00～19:00 機器展示 株式会社 テイエムアイ / 株式会社 ジョンソン・エンド・ジョンソン 株式会社 シード / 株式会社 ニデック / 株式会社 インサイト
	8 月 19 日 (金)
	9:00 開 場 9:05 ～ 9:55 グループワーク研修 10:00～12:00 グループ別発表、川島 忍先生による検証・質疑・応答 12:10～12:55 賛助会員セミナー 株式会社シード「虹彩付きコンタクトレンズ」 13:00～13:30 修了証授与, 会長講評, 閉会挨拶 13:30～14:00 教員研修会アンケート記載・提出 9:00 ～14:00 器械展示

研修Ⅰ．教育講演

「一人ひとりを大切にする学生カウンセリングのあり方」

【講師】川島 忍先生

(医療法人社団慶生会 滋慶トータルサポートセンターセンター長補佐 / 臨床心理士)



【講師略歴】

平成元年から平成10年まで秋田県の私立幼稚園の園長就任

平成11年、東京福祉専門学校非常勤講師、近畿大学九州短期大学非常勤講師就任

平成13年、東京福祉専門学校、児童福祉科専任講師、学生相談室カウンセラー就任

平成18年、臨床心理士資格取得

平成27年、滋慶トータルサポートセンター※ センター長補佐就任

※滋慶トータルサポートセンター

滋慶トータルサポートセンター（以下JTSC）は1998年に学校法人滋慶学園によって設立。学生相談機関。母体となる滋慶学園は、その理念を「職業人教育を通じて社会に貢献する」を掲げ、グループ60校において専門職業教育とキャリア教育による職業人の育成を展開。JTSCはその理念のもと青年期の心理発達過程におけるクライシス（危機）の支援を行なっている。

学校全体が、学生の個別性に対応し「個を育てるコミュニティ」へと発展することを目指している。個別カウンセリング、教職員対象の研修の実施、コミュニケーション教育の授業化、学生傾向の分析研究報告、チーム支援の標準化など様々なサポートシステムを提供。

一人ひとりを大切にする 学生カウンセリングのあり方

滋慶トータルサポートセンター
川島 忍
(臨床心理士)

第1部

学生の変化 社会の変化 ～学生の理解～

ゆとり教育世代

ゆとり教育とは

授業時間を減らし、自主的活動や体験を
取り入れたカリキュラム。2002～2011年

ゆとり世代とは

1987年～2004年生まれを指す。現在、
12～29歳。特に1995年生まれは学校教育
をすべてゆとり教育で過ごした

ゆとり世代の特徴

弱点

- ①怒られ慣れてなく、ストレス耐性が低い。
- ②指示待ちで、自ら積極的に動かない。
- ③プライベートを優先。

長所

- ①興味を持てば、まっしぐら
- ②ITに強い
- ③高い創造性

ゆとり教育解消へ

2016年度、専門学校、大学に入学した学生が
ゆとり教育で過ごした期間は4年程度。2011年
にゆとり教育は終了しており、基礎学力も含め
改善傾向にある

学生は変わったのか？

それほど変わってはいない…

2-6-2の法則

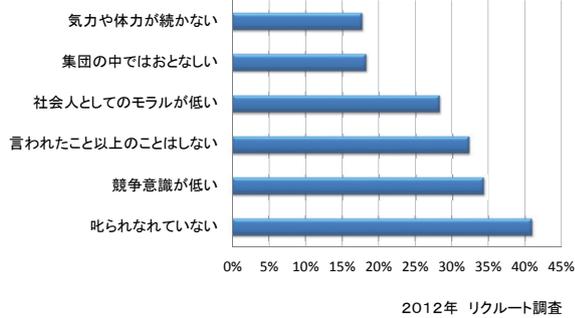
集団では

- 2割 = 優秀な層
- 6割 = ごく普通の層
- 2割 = 問題のある層



必ず2割程度、問題のある層が存在する！

今時の学生は？ 叱られなれていない……



滋慶学園サポートアンケートから

	← 自信がある			自信がない →	
	A	B	C	D	E
傾聴力	31	46	19	3	1
課題発見力	24	49	23	4	0
チームワーク力	22	45	22	10	1
発信力	14	34	36	13	3
発想力	13	33	37	15	2
実行力	13	35	38	12	2
主体性	12	33	38	15	2
計画力	11	25	35	21	4
働きかけ	8	25	37	23	7

2014年度 母数=16311

学生の傾向

- 傾聴力、課題発見力、チームワーク力
約70%の学生が自信ありと回答
- 計画力、働きかけ力
約30%の学生のみ自信があると回答
- 他にもサポート領域について
学習継続の力が不足と答えた学生
約20%

親から躰の言葉がない

- 親から言われたことがない割合
- 『ちゃんと挨拶しなさい』 63%
 - 『うそをつかないようにせよ』 62%
 - 『友だちと仲良くしなさい』 76%
- 子どもの姿の一例、やったことがある割合
- 『いじめを注意した』 22%
 - 『喧嘩をやめさせた』 32%

榎本博明「ほめると子どもはダメになる」より

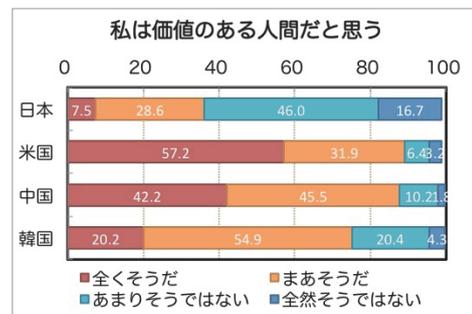
自分たちの世代の強みと弱み

順位	強み	割合	順位	弱み	割合
1	インターネット	4.3%	1	ゆとり教育世代	22.4%
2	IT・情報化社会	4.2%	2	ストレスに弱い	4.7%
3	PC、携帯、電子機器	3.3%	3	学習不足	4.5%
4	発想力・独創性	2.7%	4	忍耐力がない	3.9%
8	協力・協調性	1.9%	5	会話下手	3.2%
10	情報収集力、伝達力	1.8%	7	打たれ弱い	2.3%
			10	常識がない	2.0%

「バランス型価値意識」……情報受容力が高くチームワークには自信、しかし前に踏み出す力、考えぬく力は弱いと捉えている

リクルート「高校生価値意識調査2014」より

若者の自己肯定感



高校生の心と体に健康に関する調査2011年

学生は質的に変化

ゆとり教育、少子化、IT文化、等のシャワーの中で子どもたちの感性、価値観、物事の捉え方は質的に変化した可能性あり。



従来の社会常識や『これくらい…』というものが通用しない。2-6-2も質的に変化した可能性あり。



こんなケースもあります (第2部で)

- 神経発達症**
生まれつき脳の一部の機能に障害があり、いくつかのタイプ、自閉症、アスペルガー症候群、注意欠如・多動性障害(ADHD)、学習障害などに分類される
- 精神疾患**
うつ病や統合失調症、解離性障害などの神経症など、様々な疾患があり、多くはストレス等により発症する。
- パーソナリティ障害**
大多数の人とは違う反応や行動をすることで本人が苦しんでいた、周囲が困っているケースに診断される

学生の変化

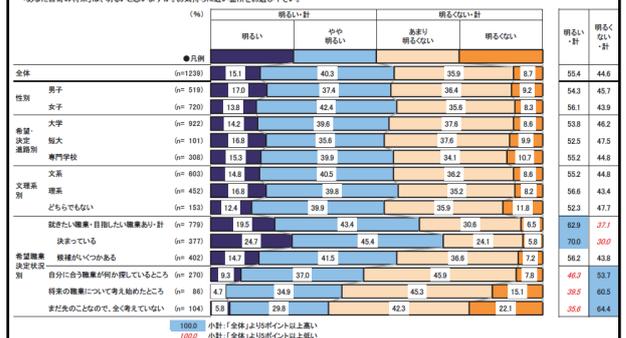
- 1) 生活様式やライフスタイルが大きく変化
価値観や感覚の変化も大きい
- 2) 社会が求める資質が身につけていないまま
今を迎えている学生が多い
- 3) これまでと同じ対応では伝わらない、また
学生に必要な資質を修得させられない
- 4) 学生の保護者からの要望も無視できない

⇒ **社会はどう変化しているか?**

自分の将来は明るい?

■将来の明るさ: あなた自身の将来 (全体/単一回答)

「あなたの将来は、明るいと思いますか、お気持ちに近い箇所をお選び下さい。」

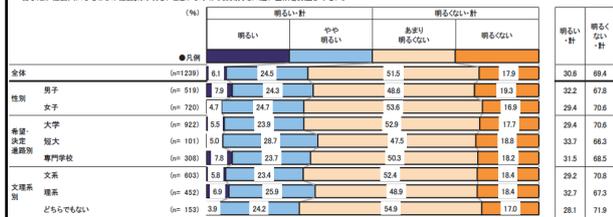


高校生価値意識調査2012年

社会の将来は明るい?

■将来の明るさ: あなたが社会人になるこの社会 (全体/単一回答)

「あなたが社会人になるこの社会は、明るいと思いますか、お気持ちに近い箇所をお選び下さい。」

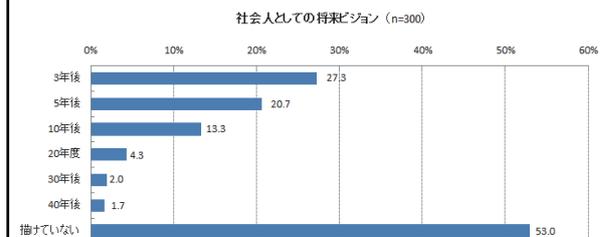


※質問紙の回答の「明るい」「やや明るい」を合わせて「明るい」、「あまり明るくない」「明るくない」を「明るくない」とした。

高校生価値意識調査2012年

将来へのビジョン

「社会人としてのビジョン」について、あなたは「〇年後の自分」をすでに描けていますか。以下の中からあてはまる(描けている)ものをお選びください(複数回答)



マクロミル「2014年就職活動に関する調査」

第1部 まとめ

- 確かに学生も変化し、以前とは異なる特性を持つようになった
- 社会も大きく変化し、若者が社会対し、明るい希望を持ってなくなっている

第2部

発達症の基礎理解

基礎知識

こんな学生 いませんか？

事例	可能性として
小学生レベルの漢字が書けない	登校習慣不足、限局性学習症
一言もしゃべらない	場面緘黙、神経発達症
質問に的確に答えられない	神経発達症(旧アスペルガー)
落ち着きがなく多動	注意欠如、多動症
人見知りが激しい	反応性愛着障害
虚言が目立つ	パーソナリティ障害
すぐに忘れてしまう	知的障害、注意欠如、多動症

基礎知識

神経発達症とは

「発達障害者支援法」(平成24年)においてこの法律において「発達障害」とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるものをいう。

神経発達症 疫学的数字

- 広汎性発達障害
約1.0% (1997 英国自閉症協会 0.91% 等より)
- 学習障害 米国において生徒の5%程度
- 注意欠陥／多動性障害 北米において学齢期の3~7%
- 軽度発達障害 (ADHD, LD, アスペルガー)

平成14年 文科省 **6.3%**

基礎知識

発達障害者への支援

第4条 国民は、発達障害者の福祉について理解を深めるとともに、社会連帯の理念に基づき、発達障害者が社会経済活動に参加しようとする努力に対し、協力するように努めなければならない

第8条

大学及び高等専門学校は、発達障害者の障害の状態に及び、適切な教育上の配慮をするものとする。

(「発達障害者支援法」)

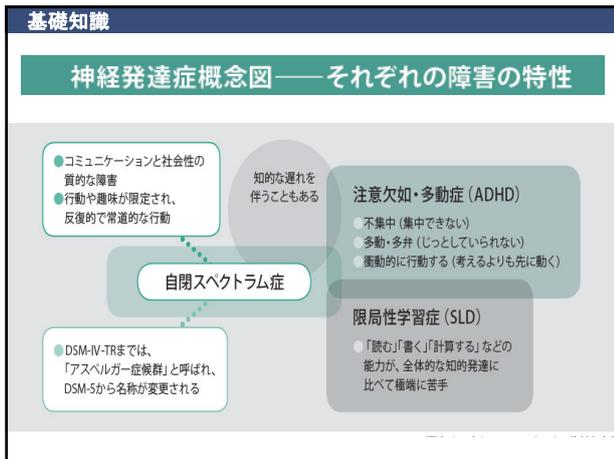
基礎知識

用語の確認

本稿で使用している「神経発達症」はかつての発達障害と同義で、DSM-5(2013年)の刊行により呼称が変更されている。他にも以下のような変更が行われている

DSM-IVTRまで(旧)	DSM5(新)
299.0 自閉性障害	299.00 自閉スペクトラム症 (Autism Spectrum Disorder)
299.10 小児崩壊性障害	
299.80 アスペルガー症候群	
299.80 特定不能の広汎性発達障害	神経発達症から除外 315.39 社会的コミュニケーション障害 (Social Communication Disorder)
299.80 レット障害	
299.80 特定不能の広汎性発達障害	

※特定不能の広汎性発達障害の一部は「社会的コミュニケーション障害」に分類される



基礎知識

注意欠如・多動症 (ADHD)

年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、及び／又は衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすもの。中枢神経系に何らかの機能不全があると推定される。

ADHDの主症状

不注意

- 学業、仕事において不注意や見逃しが多く不正確
- 課題や読書、遊びに長時間集中できない
- 話しかけられたとき、聞いていない様に見える
- 学業、仕事において指示されたことをこなせない
- 作業が乱雑、時間管理がルーズ、締め切りが守れない
- 精神的努力を要する課題、例えば報告書の作成などを嫌う、避けたがる
- 学校教材、筆記具、本、財布、鍵、携帯など活動に必要なものをなくす
- 電話の折り返し、会合の約束、用事を忘すことを忘れる

多動性および衝動性

- 手足をそわそわ動かしたり、椅子の上でもじもじする
- 席についていなければならない場面での離席
- 不適切な場面でも走り回ったりする
- じっとしてない、落ち着いてない
- しゃべりすぎる
- 順番を待てない、話をさきぎってしゃべりだす
- 他人を妨害、許可を得ず、他人のものを使う

基礎知識

SLD(限局性学習症)の定義

- 全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を示すものである。
- 学習障害は、その原因として、中枢神経系に何らかの機能障害があると推定される

★主な限局性学習症の症状

- ①「読む」ことの問題
 - 読んだ発音をする
 - 文章の文字や単語を抜かして読む
 - 読んでいる物の意味を理解する事が難しい
- ②「書く」ことの問題
 - 読んだ文字を書く
 - 句読点を間違える
 - 単語の中に読んだ文字が混じる
 - 文法の誤りの多い文章を書く
- ③「計算する」ことの問題
 - 数の感覚、計算の正確さに困難がある
 - 数学的推理の正確さに困難がある

基礎知識

★自閉スペクトラム症

A: 社会的コミュニケーション及び相互関係における持続的障害

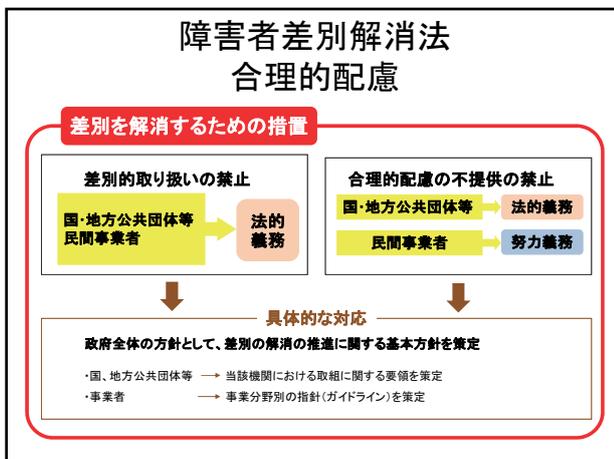
1. 社会的、情緒的な相互関係の障害
2. 他者との交流に用いられる言葉を介さないコミュニケーションの障害
3. (年齢相応の対人)関係性の発達・維持の障害

B: 限定された反復する様式の行動、興味、活動

1. 常同的で反復的な運動動作や物体の使用、あるいは話し方
2. 同一性へのこだわり、日常動作への融通の利かない執着、言語・非言語上の儀式的な行動パターン
3. 集中度や焦点づけが異常に強く限定、固定された興味
4. 感覚入力に対する感受性あるいは鈍感性、あるいは感覚に関する環境に対する普通以上の関心

C: 症状あるいは発達早期段階で必ず出現するが後になって明らかになるものもある

D: 症状や社会やその職業その他の重要な機能に重大な障害を引き起こしている



支援について

クラスで取り組める支援 合理的配慮の例

- ①情報を視覚を中心に複数の手段で伝える
- ②できる限り予定や手順に見通しをつけ、説明する
- ③指示系統をはっきりさせ、担任が指示を出す仕組みを作る
- ④本人のこだわりを許容する
- ⑤五感過敏へ対策をとる(授業中のイヤホンOKの場合もある)
- ⑥学校以外での付き合いを軽くする
- ⑦ポモドーラテクニックを使い、授業を細かく刻む
- ⑧フリースペース、タイムアウトスペースを使う
- ⑨本人の意思表示の方法を工夫する
- ⑩集中力のそがれやすい環境は改善する(整理整頓)
- ⑪否定したり、叱ったりせず、具体的な行動を指示する
- ⑫指示は短く、一つ一つ区切る

第2部まとめ

- 発達症の学生も一定割合でクラスに在籍
- 発達症は軽度から比較的重度までさまざま、個人差も大きい
- 心理臨床の専門家からの支援を得ることが望まれる

第3部

カウンセリング技法の 学生支援への活用

学生の指導、支援に疲労感を感じて
いませんか？

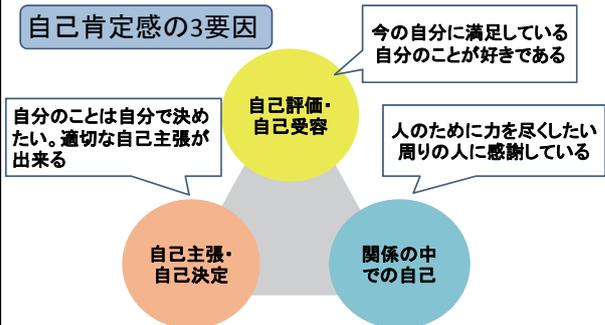
「自分で考えて、動きなさい！」
「学ぶのではなく、真似なさい」
「失敗を恐れずに取り組みなさい」

学生はどう行動していいかわからない！

従来の指導、支援法が通用しなくなっている！

自己肯定感の構造

自己肯定感の3要因

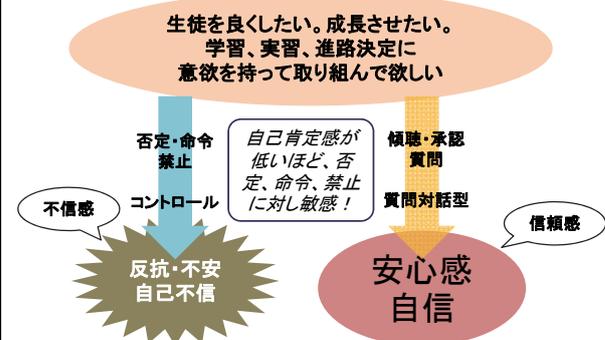


自己肯定感の高い人

「自分のことが好きである」
「人のために力を尽くしたい」
「自分のことは自分で決めたい」

高い学習意欲・高い職業意識・行動的

自己肯定感の低い学生の対応



自己肯定感が低い場合

- ・ マイナス思考、意欲の低下が起こりやすい
- ・ 逆にちょっとしたことに敏感なこともある
- ・ 「勇気づけ」の言葉かけが効果的
例)「よく頑張っているね・・・」
「良い気づきがあったね・・・」 など
- ・ 必要とされている、役に立っているという
思いがあると、意欲的になる

カウンセリング技法の活用が効果的

- ・ カウンセリングマインド
- ・ 受容、傾聴、共感
- ・ コンプリメント
- ・ アイメッセージ法など

カウンセリングマインドを持った学生対応

カウンセリングマインドを持った学生対応の目安	
学生の話は傾聴する	話された内容を 評価・批判したりせずに まずは受け容れる
気持ちや考えに共感を示す	1人の人間として関わる

ロジャーズのクライエント中心療法

人間観	▶人間は本来成長をする可能性秘めており、生まれながらにして自己実現に向けて努力しようとする存在である。
パーソナリティ論	▶人間は自ら成長し自己実現しようとする力を持っている。 ▶本人が自分をどう見るかという自己概念が行動の基になる。 ▶自己概念は、幼少期における親などの評価を基盤にし、経験を取り入れて形成される。 ▶一度形成された自己概念は、ポジティブでもネガティブでも崩れまいとする。
病理論	▶自己不一致（自己概念と経験のズレ）が問題行動の原因である。 ▶自己不一致状態では、自分の本当の経験に対して嫌悪や拒否をして、自己概念が脅かされ不安や緊張が高まる。
目標	▶心理的不適応のクライエントが自己概念に柔軟性を取り戻し、自分の経験や感情を否認や歪曲することなくありのままに受容することが中心目標。
カウンセリング関係	▶クライエント中心療法では、リレーション（人間関係）がクライエントの変容を促すと考え、カウンセラーの積極的傾聴を主とした。 ▶カウンセラーの知識量よりも基本的な態度を重視した。

傾聴の技術1

受容している応答

言語的 ↓ 相づち	「はい」「ええ」「そう」「うむ」 「そうですか」「へえー」など	非言語的 ↓ うなづき	視線はやわらかく、落ち着いた声のトーン。
-----------------	------------------------------------	-------------------	----------------------

「繰り返しの」会話例

例

教師：友だちに嫌われているみたいで……あまり話しかけてくれないうです。

学生：友だちに嫌われているように感じているんだ……

傾聴の技術2

「感情の明確化」の会話例

例

教師：ケガで留年しているの、まだ2年生ですが、もとの同級生は3年生で卒業なんです。留年も決まっているように、いつもワイワイと楽しくやっていた……一応、友だちだから一緒に輪に入りたいのですが、向こうも自分に気を遣っているの、目は合うのですが話しかけられないし、話しかけてもらえないんです。

学生：留年したことで、もとの友だちとなんとなく気まずい感じがするのね。本当は輪に入りたいんだけど、入れない、入れてもらえないような感じがして、寂しいと思っているのね。

「褒める」ときのポイント

事実や証拠を具体的にあげて褒める

例1：～をしたというのは、がんばったね

例2：～という結果になったのは努力の成果だよ

効果的な質問技法

5 質問 学生をより理解するために聴く

一般に質問は、以下の2種類に分けられる。

閉ざされた質問	閉ざされた質問とは、クライアントの応答が「はい」「いいえ」または1～2語で答えられる質問である。閉ざされた質問は、クライアントから情報や気持ちを聴くときに用いられることが多く、語尾が「～ですか？」の形になるものである。
開かれた質問	開かれた質問とは、一言では答えられない質問である。具体的には、いつ・どこで・だれが・何を・どのようになどの質問である。「そのことについてどう感じましたか?」「そのことについてもう少し話してくださいませんか?」というような形になるものである。注意点は「どうして?」の質問は学生を追い詰めたり、言い訳になったりするので、できるだけ避けたい方がよい。

学校生活と学生支援

学習面

進路意識面

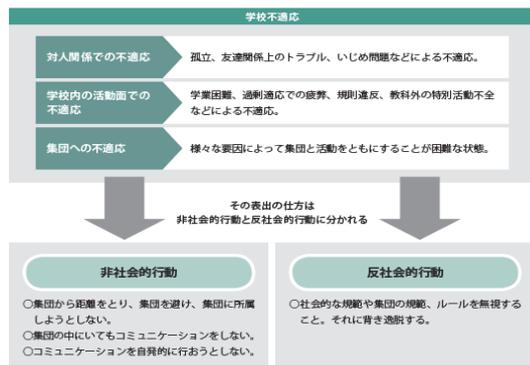
心理社会面

メンタルヘルス面

いずれかが ↓ 低迷すると...

学校継続が困難に...

学生の現象とカウンセリング



本人の心理的な問題

〈本人自身のパーソナリティの問題〉〈家族関係から影響を受けた問題〉〈本人の社会性やソーシャルスキル、コミュニケーション能力の低さの問題〉などが含まれる。
このような場合は、本人の成長によって解決していくことが多いので、専門のカウンセリングを受ける。少しずつ学校の別室登校ができるようになるなどを目標とする対応が考えられる。

学校での問題

「学校に嫌なことがあるので登校できない」というような場合である。その要因を見つけて環境調整を行う必要がある。具体的には、〈クラスでの人間関係の問題〉〈教職員との関係の問題〉〈学業上の問題〉などがある。いずれの場合においても、まずは、学生が安心して自分の気持ちを話せる場をつくり、学生との間に信頼関係をつくるのが大切である。カウンセリングマインドを持った学生面談によって、状況を聴き必要な環境調整を行う。

クラスでの人間関係の調整

クラスでの人間関係の調整としては、本人が避ける人間関係（例えば、特定の同級生との関係など）の改善を試みる。その関係とは別の場や別の人間関係の中で本人を支える仲間を見つけられるように配慮する。

教職員との関係不全の調整

教職員との関係が悪い場合は、教職員自身が学生に脅威を与える存在になっていることも想定し、他の教職員やカウンセラーなどが両者の関係に介入し調整をする。

教職員のコミュニケーション力

「話す」ための留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・伝える内容は明確に ・表現は明確に ・感情を言葉に載せて話す
「聞く」ための留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の伝えたい内容を正確に捉える ・相手の感情を正確に捉える ・相手の枠組みで捉える ・反応を示す
「観る」ための留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・視線、まなざし、表情、身振り、手振り

学生面談における+アルファのスキル

1. アイメッセージ(I Message)
 - 相手の行動+その影響+自身の思い
2. ほめ方のポイント
 - ほめる事は価値を認める行為
 - 学生を良く見る
 - リフレーミング
 - 「思考」「感情」「行動」「変化」に注目
3. 勇気づけ
 - 「(具体的な行動を挙げ)頑張っているね」

アイメッセージとは

指導例A

× 君が提出物を期限内に出さないというのは、社会常識から外れた行為だよ。

指導例B

○ 私は君が期限を守らなくても平気な人にはなってほしくないんだ。期限内に提出するのは社会では常識だからね。だから期限を守ることを習慣にしてほしい。

基本パターン 「私(主語)」+「伝えたい思い」

分類名	宣言	活用区分	自身が感じた意見や気持ちを率直に伝えるときなど
	例文		「私は君が期限を守らなくても平気な人にはなってほしくないんだ。」
分類名	予告	活用区分	学生の抵抗感や否定的な感情を緩和したいときなど
	例文		「(私は)君に聴いてほしいことがあって今日は面談に来てもらいました。」

「やればできる」の研究

～キャロル・ドゥエック

<次の2つのほめ方をごらんください>

1. 「まあ、8問正解よ。良く出来たわ。頭がいいのね」
2. 「まあ、8問正解よ。良く出来たわ。頑張ったのね。」

さて積極的に難しい事に挑戦できるようになったのは1. 2. どちらでしょうか？

答えは・・・

2. です。つまり

能力を褒めると生徒の知能が下がり、努力を褒めると生徒の知能が上がる。

「能力」ではなく「努力」をほめることが重要。

<事例>

さらに、努力を評価した上で、ワンランク上の課題を提示した場合、能力に言及して課題を提示した場合より、達成度合いが高くなることもわかっています

2つのマインドセット

Growth マインドセット



しなやかマインドとも呼ばれ、自分の能力は、努力次第で伸ばせる、困難があっても、能力を身に付けていけば、乗り越えられると思ふ発想のこと。努力を信じ努力をほめられ、育てられた結果といえる

Fixed マインドセット



こちこちマインドとも呼ばれ、今ある能力で、「できる」「できない」を判断してしまうし、「できない」と判断したら、リスクを恐れ、挑戦をしない姿勢。能力絶対主義

伝え方の工夫 (Growthマインドセット)

- ①伝えることを絞り込む
- ②相手の反応を想定しておく
- ③スタートはアイスブレイクから
- ④相手を認める言葉をかける
- ⑤クッション言葉を入れる
- ⑥なぜ、どうしてかを確実に伝える
- ⑦伝わったかどうかを確認
- ⑧努力に対する評価の言葉で締めくくる

第3部まとめ

- ・現代の若者の特徴の一つに『自己肯定感』の低下がある。
- ・相手をよく理解するカウンセリングマインドや技法の活用が効果的
- ・教職員も学生の指導、支援に疲弊している可能性がある。メンタルヘルスを大切に

研修Ⅱ. グループワークと発表 「学生指導のケーススタディ」

グループワークテーマ

- ① 学習障害、成績不良者への対応 . . . 1班、2班
- ② 学生のメンタルケア・学生指導 . . . 3班、4班
- ③ SNS 対策、ネットリテラシー . . . 5班
- ④ ハラスメント . . . 6班
- ⑤ 臨地実習中の指導 . . . 7班

平成 28 年度 第 9 回教員研修会 グループワーク班員名簿

1 班 ① 学習障害、成績不良者への対応	
氏 名	所 属
野上 豪志	国際医療福祉大学
八木 敏次	首都医校
田原 洋子	大阪医専
岸上 幸代	大阪医療福祉専門学校
畑中 深里	神戸総合医療専門学校



2 班 ① 学習障害、成績不良者への対応	
氏 名	所 属
菅原 恵	東北文化学園専門学校
田所 雅弘	仙台医健専門学校
林 弘美	帝京大学医療技術学部
今井 哲也	東京医薬専門学校
潮井川 修一	福岡国際医療福祉学院



3 班 ② 学生のメンタルケア・学生指導	
氏 名	所 属
川岸 寿幸	吉田学園医療歯科専門学校
鈴木 彩華	仙台医健専門学校
鎌田 泰彰	国際医療福祉大学
池田 結佳	帝京大学医療技術学部
鈴木 ほまれ(WG)	東京医薬専門学校



4班 ② 学生のメンタルケア・学生指導

氏名	所属
石井 滋人	東京医薬専門学校
高橋 進	洛和会京都厚生学校
中山 奈々美	大阪人間科学大学
渡部 暁子	神戸総合医療専門学校
露無 陽子(WG)	帝京大学医療技術学部



5班 ③ SNS対策、ネットリテラシー

氏名	所属
高橋 由嗣	国際医療福祉大学
藤村 芙佐子	北里大学
梅津 綾乃	首都医校
田保 和也	大阪医療福祉専門学校
提嶋 紀枝(WG)	吉田学園医療歯科専門学校



6班 ④ ハラスメント

氏名	所属
山田 正幸	吉田学園医療歯科専門学校
庄子 南美	仙台医健専門学校
佐藤 司	国際医療福祉大学
稲垣 尚恵	愛知淑徳大学
難波 哲子	川崎医療福祉大学



7班 ⑤ 臨地実習中の指導

氏名	所属
野原 尚美	平成医療短期大学
石橋 武志	名古屋医専
横田 敏子	大阪医療福祉専門学校
立本 志磨	大阪人間科学大学
齋藤 真之介(WG)	九州保健福祉大学



学習障害、成績不良者への対応

1班 野上 豪志 八木 敏次
 田原 洋子 岸上 幸代
 畑中 深里

ケース①

課題、レポート等を提示した際に特定のペア、またはグループ内で全く同じ内容の物を提出してしまう。

- 休暇中に出した課題を自力で解かず、他の学生の物を写している疑惑がある。
 - 提出した学生のレポートの内容を確認すると、一字一句同じ内容で提出してきている。(レポート内の誤字等も全く同じで提出してくる。)
- ※ 疑惑のある学生は成績不良であることが多い。

対応

どのように行うべきか、苦慮している。

このケースの問題点と原因

- 教員の眼の届かない部分で写してしまう為、その場で指導ができず、証拠が無い為、真相を調べる術がない。(どのように対応すべきか分からない。)
- 課題の評価について考える場合、どの様に評価して良いかが分からない。
- 複数の学生が揃って同じ間違いをしているということは、その部分を理解していない可能性がある。

対策案

- 課題に対応した小テストを行う。(事前にアナウンスしておく。)
- 疑惑のある学生に対し課題の重要性(目的)を個別に説明する。
- ①実際に「写させた」疑惑のある学生に事情を聞いてみる。
②「写した」疑惑のある学生にも事情は聞く。
※ どの様に学生から事情を聞くのかを考える必要がある。

ケース②

2年生後期(2014年)の途中から勉強についていけず、学校に行くのも辛く、休学。
2016年4月に復学し、その時はモチベーション高い。

4月5月は意欲的だったが授業にはついていけず、放課後に友達や教員に質問をしていたが、理解が遅く、暗記をするのにも非常に時間を要する。

6月から再度勉強についていけず不登校になり、8月に退学。

対応

- 学習意欲は高かった為、放課後にマンツーマンでの学習指導に時間をかけた。
- 徐々に欠席が増えてきたが、その時に面談を実施した。(以下、面談内容)
 - Q.最近何がしんどいか？
 - ①勉強についていけない
 - ②退学意思を仄めかすが、他にしたいことは特にない
 - ③親は続けてほしいと言う
- 母親から、本人の「学校に行きたくない」という意思を初めて聞く。
- 環境ではなく、とにかく勉強についていけないのがしんどいとのこと。

このケースの問題点と原因

- 復学への準備ができていなかった。
- 学生と一緒に勉強はしていたが、達成感を感じさせるきっかけがなかった。
- 意欲が高い時に勉強のことのみへの指導となっていた。
※理解するのに時間がかかる為、指導に力をいれすぎた。

対策案

- 復学意思の確認と休学中の状況の確認等。(休学中もコミュニケーションをとっておく)
- 復学意思があるならば、学習サポートをすぐに始める。
- 絶対に解ける小テストなどを実施し、達成感を感じさせる
努力に対しての成果が出たことを褒める
- 学生の心理的状況の確認をし、成績があがらない時に学習指導だけでなく、
心理的状況にも配慮し話す機会を多く設ける。
※心療内科にすでに通っている学生に対し、どこまで踏み込んで良いかがわからない

2班

東北文化学園専門学校
仙台医健専門学校
帝京大学
福岡国際医療福祉学院
東京医業専門学校

菅原 恵
田所 雅弘
林 弘美
潮井川 修一
今井 哲也

学生

- ▶ 学生像
19歳、女性
指定校推薦にて入学
2年次留年となり、現在休学中
1年次の成績はギリギリでの進級
授業態度は真面目
出席率は100%（皆勤）

- ▶ 友人関係に問題はない
- ▶ 仲の良いグループ内に成績上位の友人がおり、その友人と自分を比較するため、自己肯定感が低い
- ▶ 視能訓練士になりたいと気持ちが高く、授業には真面目に参加するも、成績不振（目立つ程ではない）

問題

- ▶ 2年次前期の定期試験直前に本人から退学の意思表示
試験は受験するも、再試験対象となった科目が複数
保護者は継続を希望
その後、後期授業も100%出席
最終の再試験を受験せず、留年となる。

問題

- ▶ 最下層の成績ではなかったため問題のある学生として上がってこなかった
→対応の漏れ
- ▶ 成績不良からの意識低下
- ▶ 保護者との意識の違い

対応

- ▶ 面談で本人の意志確認
→親との確執が発覚
・学校が間に入り、学生と保護者双方から意志を確認

親) 学校は続けるべき
学生) 音楽関係の職業を選びたい

まとめ

- ▶ 各校にも類似ケースが存在し、成績、意欲、家庭環境など背景は違うが、2-6-2で分類するところの6の層にいる学生に多いように思われる。
- ▶ 最下層の2に対しては常に気を配りフォローを行うことができるが、問題学生として表面的に出てこない学生の変化をいかに察するかが課題と考えられる。

平成28年度 全国視能訓練士学校協会
第9回 教員研修
・グループワーク分野 学生のメンタルケア・学生指導

「クラス内におけるいじめについて」

3班 川岸 寿幸(吉田学園医療歯科専門学校)
鈴木 彩華(仙台医健専門学校)
鎌田 泰彰(国際医療福祉大学)
池田 結佳(帝京大学医療技術学部)

1. ケース紹介

被害者: 2年女子 (20人クラス 男女比 1:19)

- ・保護者からの連絡で事態が発覚
- ・様々な対応を行ってきたが、現状としていじめはなくなっていない

【対応内容】

① 事実確認

- ・1年時からいじめがあった
- ・クラスの半数からいじめを受けている
- ・言動を真似される
- ・SNSでの嫌がらせ

- ・対象学生に直接指導して現状が悪化することを恐れている。

② 両親へ今後の対応の提示

- ③ 最低でも月に1回の面談を行う
- ④ スクールカウンセラーによるカウンセリング
- ⑤ 休み時間に教室に教員が出向く
- ⑥ 座席・実習試験の組み合わせの考慮
- ⑦ 心理教育

2. ケースの問題点

- ・1年時からのいじめを教員側が把握できていなかった。
- ・教員側のいじめ対策の知識が乏しい
- ・加害者の学生達のメンタルケアができていなかった

3. 問題点の原因

- ・1年時の面談で本人の状況を把握することができていなかった。
- ・入学時にモラルは身につけているだろうという考えがあったため、いじめについてはノーマークであった。
- ・新しい環境の中で対象学生にストレスがあったのではないか。
- ・被害者の学生対応ばかりを優先し、加害者の学生のケアができていなかった。

4.対応方法

- ・定期的に面談を行い、状況の把握。
- ・学科内でいじめ対策について明確にする
- ・1年時から医療人としての道徳的な教育が必要

平成28年度 全国視能訓練士学校協会
第9回 教員研修 グループワーク発表

テーマ: 学生のメンタルケア・学生指導

4班 ☆高橋 進
中山 奈々美
渡部 暁子
露無 陽子
石井 滋人

クラス内で孤立してしまう学生

【要因】

- ・消極的
- ・コミュニケーション能力が低い
- ・1年次に目立ちたがり(煙たがられる)
- ・留年生(プライド高い)
- ・気にしすぎる
- ・繊細
- ・人の話を聞かない(心の中で反抗)
- ・年齢が高い

クラス内で孤立してしまう学生

【具体例】

4年生 男性

- ・コミュニケーションが苦手
- ・自分から働きかけない
- ・真面目だが、思い込み激しい
- ・動作がぎこちない(無表情) → 距離を置かれてしまう雰囲気
- ・レスポンスが遅い

クラス内で孤立してしまう学生

【状況】

- ・3年次の学内実習中、ペアになってくれない。
(特に若い先生の時)
- ・孤立している
- ・授業中も一人ぼっち
(クラスメートは意図的ではない)
- ・本人からは相談がない
(悩んでいるか分からない。カリキュラムが進まない。)

クラス内で孤立してしまう学生

【対応】

- ・本人およびクラスメートへの声掛け
- ・温かな子と組ませている
- ・授業以外にもコミュニケーションを図っている
- ・面談の時にできた事を褒めている

クラス内で孤立してしまう学生

【他の事例での対応】

「自閉スペクトラム症」の学生(1年制課程)

【状況】

- ・演習授業についていけない
→クラスメートがペアになってくれない。

【対応】

- ・学内カウンセリング → 結果的には後期休学(次年度復学予定)
- ・臨床心理士

クラス内で孤立してしまう学生

【課題】

- 1) 学生への声掛けの仕方(本人&クラスメート)
 - ・経験年数が浅い教員
 - ・班長への働きかけ
- 2) ベアリングの仕方
 - ・教員が決める？
 - ・くじ引き？
- 3) 本人が「自己開示」できるような働きかけ
 - ・ご家族への協力

平成28年度
全国視能訓練士学校協会
第9回 教員研修会

テーマ：SNS対策・ネットリテラシー

発表者：大阪医療福祉専門学校 田保和也

班員：国際医療福祉大学 高橋 由嗣

北里大学 藤村 芙佐子

首都医校 梅津 綾乃

吉田学園医療歯科専門学校 提嶋 紀枝

1 ケースの紹介

- ① 学生 — 実習先
- ② 学生 — 教員
- ③ 学生 — 学生

1 ケースの紹介

- ① 学生 — 実習先
- ② 学生 — 教員
- ③ 学生 — 学生

ケース①：学生 — 実習先

事例（処罰があった場合内容を記載）

- ・実習先の病院のベッドで校章を隠し記念撮影を行いSNSにupした
- ・実習先で撮影した写真や指導者に関する情報をSNSにupした
処罰：校則違反のため臨地実習への参加を途中で中止させた
- ・救急車に乗車したときの内容をSNSにupした
処罰：実習先から実習中止の宣告を受けた
- ・実習中に使用する名札から学生の氏名を確認
→SNSを利用し患者から連絡があった

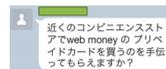
1 ケースの紹介

- ① 学生 — 実習先
- ② 学生 — 教員
- ③ 学生 — 学生

ケース②：学生 — 教員

事例（他学科を含む）

- ・教員の写真を隠し撮りしSNSにupした
- ・非常勤講師の写真を隠し撮りしSNSにupした
- ・教員のSNSがのっとられ学生に金品を請求する類の通知があった



ケース③：学生 — 学生

事例（他学科を含む）

- ・他の学生の写真を隠し撮りし面白半分SNSにupした

2 ケースの問題点と原因

- ① 学生 — 実習先
- ② 学生 — 教員
- ③ 学生 — 学生

ケースの問題点と原因

すべてのケースに該当する問題点

- ・ 普段からSNSに対する認識、注意が不足している
(学生だけでなく教員も該当する事例あり)

- ① (患者からの連絡) に該当する問題点
 - ・ 実習中に使用する名札に実名が記載されている
- ② (SNSの乗っ取り) に該当する問題点
 - ・ 教員が個人 (プライベート) の連絡先を学生に伝えてしまっている

対処方法

すべてのケースに該当する対処方法

- ・ 学生：入学時から具体的な事例を提示し指導する
- ・ 教員：教員も定期的にSNSに関する研修会を行う
- ・ 学生&教員：普段の利用方法の見直しを行う
毎回緊張感を持って利用する

- ① (患者からの連絡) に該当する対処方法

- ・ 氏名を記載することを避ける
例) 「実習生」とだけ記載する など
→ 病院との調整が必要である

- ② (SNSの乗っ取り) に該当する対処

- ・ 個人 (プライベート) の連絡先を学生に伝えない
例) 連絡を取る必要がある場合は個人が
特定されない方法で行う

最後に

やるべきことは浮き彫りにすることができたのですが
未熟な私達では脅して??指導する方法しか思いつきませんでした。

川島先生

社会のルールを他人事ではなく自分のことだと認識させるにはどのように説明するのが良いのか教えていただければと思います。



自分にも起こりうる 身近なハラスメント事例



吉田学園医療歯科専門学校 山田正幸
 仙台医健専門学校 庄子南美
 国際医療福祉大学 佐藤 司
 愛知淑徳大学 稲垣尚恵
 川崎医療福祉大学 難波哲子

発表内容

1. 学生へのパワーハラスメントの事例
2. 男性教員の女子学生への対応
～お悩み相談～

学生へのパワーハラスメント

- ✓ハラスメント防止委員会に上がってくる事例は誰が考えても適正指導の範囲を超えている
- ✓学科内で解決した比較的軽い事例をピックアップ
- ✓適正指導の範囲内と考えられる事例を考察

目的

自分にも起こりうる 身近なパワハラ事例について検討



事例

◆視力検査(乱視表)の学内実習中

教員が学生に対して机をコツコツと叩きながら「授業中に何回も言ったよね」と言った

学生は帰宅後、夕飯が食べられないほど落ち込み両親に相談 → 親が学校に電話して問題が発覚

・学生の意見

「机をコツコツと叩いたきながら叱責され、何も考えられなくなり検査ができなくなりました」

事例

◆Back ground

- ・前回の授業および実習において、乱視表の手順を説明し復習しておくように伝えてある
- ・他の学生はできているにもかかわらず、該当学生は実習中に全くできていなかった
- ・実習は大人数で行われており、学生一人に割ける時間は限られていた

事例

◆事実確認

教員は事実を認めた

教員

「臨地実習に送り出せないと判断し、熱心に指導したつもりである」

「手を出したわけではなくハラスメントではない」

→ 第3者が両者の間に入り和解
(保護者には所属長が説明し納得された)

問題点の抽出

教員側

- 机を叩きながら指導した
- その後の指導の説明(フィードバック)がなかった
- 指導が一方向的であった
- 教員のハラスメントの認識が足りなかった

学生側

- 親以外に相談できる相手がいなかった
- 実習に対する意識の低さ
- 一緒に勉強・練習する学生がなかった

本件における原因のまとめ

教員側

教員のハラスメントの意識が足りなく、指導が一方向的になってしまった(指導後のフィードバックなかった)

学生側

実習に対する意識の低さと準備不足が根底にあるが一緒に勉強や練習をしたり相談できる学生がなかった可能性がある

対応について

◆どのように対応すべきであったか

- ① 実習中に間違っている箇所を指摘
- ② 何が違っていたかを一緒に実習していた学生と調べさせて報告させる
(他の学生と一緒に指導することで孤立をふせぐ)
- ③ 報告させた時にフィードバックを行う。
(一方向的にならず学生の考えを聞きながら)

小活

教員のハラスメントに対する認識を高める

常に学生とコミュニケーションをとって
良好な信頼関係を構築することが大切

発表内容

1. 学生へのパワーハラスメントの事例
2. 男性教員の女子学生への対応
～お悩み相談～

事例

◆どこからがセクハラなんですか？

学内実習中

教員が女子学生に検査手技を教えるときに、手技を指導しようとして思わず手を触れようとしたが、ハラスメントを意識して途中で手を止めた

学生がその行動に気づき「気にしないで下さい」と言われた。

セクハラ of 定義

◆セクハラ of 定義

相手をの意思に反して

不快や不安な状態に追い込む性的な言動

→ 今回の事例では定義に当てはまらない

しかし・・・

手に触れられることが不快に思う学生はいるはず

男性教員 of 女子学生への対応

～お悩み相談～

◆ディスカッション

- 基本的には触らない方がいい
- 最悪触ってしまった場合のため学生との信頼関係を構築しておく
- 全ての学生と適切な距離感を保つ

結論

全てのハラスメントは相手の気持ち次第であり

学生と適切な距離と良好な

信頼関係を築いておく必要がある。

グループワーク第7班 臨地実習中の指導

平成医療短期大学 野原尚美
大阪医療福祉専門学校 横田敏子
名古屋医専 石橋武志
九州保健福祉大学 齋藤真之介
大阪人間科学大学 立本志磨

7班 GW: 臨地実習中の指導

ケース紹介1

- ・指導者からの検査や実習ノートの指示を守れない。
- ・実習中の姿勢に問題がある(足を組む、猫背)
- ・注意を受けたら学校側へ連絡するように指導していたが行っていない(指導者から「注意欠陥障害じゃないか?」と言われていると学校側へ伝えた)

対応内容

- ・臨地実習指導者からの指摘のあった直後に登校させ面談指導
- ・報連相の重要性を指導
- ・学生に対し指導者の指導内容を確認し、その後の行動について教員と検討した

第9回全国視能訓練士学校協会 教員研修

7班 GW: 臨地実習中の指導

ケース紹介2

- ・指導者が私語について注意をしたが、実習生同士の人間関係を維持することも重要であり話を断ることが難しいと実習生が指導者に対し発言した。

対応内容

- ・実習生の立場をよく考え行動するように指導した。

ケース紹介3

- ・始業時間前の眼科外来CL指導用洗面台でうがいをしていた。

対応内容

- ・個人の使用が許される場所、許されない場所の区別について指導した。

第9回全国視能訓練士学校協会 教員研修

7班 GW: 臨地実習中の指導

ケース紹介4

- ・指導者に対し「眼科外来で学習面で分からないことは携帯電話で調べてよいか?」と発言し、一時的に許可を得たが頻用していた。

対応内容

- ・本来持参すべきでない携帯電話を持参することに問題があり、持参してはならない理由について考えさせた。

第9回全国視能訓練士学校協会 教員研修

7班 GW: 臨地実習中の指導

問題の原因

< 症例のように、トラブルとなる学生の特徴 >

- ・ **問題行動であることに気づけない 自己客観視ができない** … ☆
自分がどういうつもりだったか、に重きが…
行動自体に大きな問題がなくても、振舞いなどから誤解されてしまいやすい
小さな誤解が積み重なり、失敗の際の印象が悪くなってしまう
- ・ **対応力がない 言われたことしかできない** → 指導者の熱意との乖離
トラブル耐性がなく、フリーズしてしまう
落ち着いて考えると反省もでき、正しい対処も考えられる
→ 問題意識がないなどと誤解されることも
- ・ **無意識に身を守るために、話を盛ってしまう**
まずは学生の話を信じるが、聴きみにはしない
自分の発言がどのような影響をもたらすか想像できない

第9回全国視能訓練士学校協会 教員研修

7班 GW: 臨地実習中の指導

ケースの問題点

- ・ **問題行動であることの「気づき」を学生に提供することができなかった**
ex) 親から、『ちゃんと挨拶しなさい』と言われたことがない …63%??
↓
伝えた「つもり」でも、伝わっていないことがある
 - ・ **問題行動が訂正(意識化)できていないまま実習に出してしまった**
指導「した」≠ 伝わった、改善できる
ex) 従来の指導法、支援法が通用しなくなっている!
抽象的な表現や、実感の持てない指導では伝わらない(改善できない)
↓
特性を理解した指導が必要
- (・実習指導者の方への、学生の現状などの情報共有も必要)

第9回全国視能訓練士学校協会 教員研修

対応方法の提示 — 「気づき」を促すための工夫として...

<いかに、学内実習の段階で緊張感を持たせるか>

- ex) 学校(実習室)を、病院だと思って行動を
 大きな荷物は持ち込まない(ロッカーに持っていかせる)
 姿見を置き、実習前に自己点検 → 教員もチェック
 実習室の入退出時に一礼する(神聖な場である)

<自己客観視を促す>

- ex) ビデオ撮影をして自身の振る舞いを目の当たりにさせる
 → 大変効果的! 実感すると素直に受け容れられる
素直な学生が多い

OSCE(客観的臨床能力試験)の結果を共有
 → 自己評価と他者評価を受ける

第9回全国視能訓練士学校協会 教員研修

対応方法の提示

(指導者会議などで、学生の現状、教育の知識などを共有)

実習指導者と、学生を「共に育てる」という意識を共有する
 施設の方針はあると思うが、迎合するのではなく**お互いにより良く**していく

- ・実習中は依頼しているので、物申すことはできない
- ・引き受けて頂いているからには、教育法は委ねるしかないという現状も...

指導者も「育てる」つもりで **『視能訓練士教育』**という目線
 未熟なバイザーも、見守る
 → 指導者自身もゆとり世代であることも それも汲みつつ...

学生の気持ちのモヤモヤ(不利益)を救うことと、
 実習先に失礼のないよう事実確認をすることの両立が課題

学校は**中立的な**立場で、**客観的**に問題把握(事実確認をする)

第9回全国視能訓練士学校協会 教員研修

ケース紹介5

・指定のロッカールームから眼科外来への移動中に髪を結ばずに移動し、
 他科のスタッフより指導者が苦言を受けた。

第9回全国視能訓練士学校協会 教員研修

ケース紹介2

・検査椅子へ患者様を誘導する際に患者様が転倒したが実習生の初動が遅く、
 指導者が対応した。その後、指導者や学校側への報告がなかった。

対応内容

・実習期間中に実習生に対し、患者様の安全確保を第一に考え、医療従事者としてどのような行動をとるべきであるか考えるよう指導した。

第9回全国視能訓練士学校協会 教員研修

賛助会員協賛企画

賛助会員協賛企画

賛助会員様にご協力いただき最新の機器展示を行って頂きました。このたびも教育および臨床で有用な情報を得る貴重な機会となりました。

ご協力を頂きました 株式会社 テイエムアイ様、株式会社 ジョンソン・エンド・ジョンソン様、株式会社 シード様、株式会社 ニデック様、株式会社 インサイト様に深く感謝申し上げますとともに、今後ともご支援を賜りたく教員研修会一同よりお願い申し上げます。



株式会社 テイエムアイ



株式会社 ジョンソン・エンド・ジョンソン



株式会社 シード



株式会社 ニデック



株式会社 インサイト

研修風景

研修Ⅱ. グループ別発表 「学生指導のケーススタディ」



賛助会員セミナー 株式会社シード「虹彩付きソフトコンタクトレンズ」



研究開発本部 福島 努先生

平成 28 年度 第 9 回教員研修会 修了証授与



全国視能訓練士学校協会 会長 新井田 孝裕先生より講評



教員研修会アンケート

第9回全国視能訓練士学校協会 教員研修会アンケート

全国視能訓練士学校協会 教員研修会ワーキンググループ

平成28年8月19日

第9回教員研修会へご参加いただきありがとうございました。

本研修会をよりよいものにしていくため、アンケートへのご協力をお願いいたします。

◇ 教員歴（ 年 カ月） 視能訓練士歴（ 年 カ月）

I 教員研修全体のプログラム構成について

- | | | | |
|---------------|-----------|-------|------------|
| ① 教育講演 | （あったほうがよい | 不要である | どちらともいえない） |
| ② 賛助会員によるセミナー | （あったほうがよい | 不要である | どちらともいえない） |
| ③ 器械展示 | （あったほうがよい | 不要である | どちらともいえない） |

II 研修会の運営について

- ① 開催日の設定（よい よくない どちらともいえない）
ご自身として、いつ頃がよいでしょうか（ ）
- ② 全体タイムスケジュール（よい よくない どちらともいえない）
- ③ 参加費の金額（懇親会含む）はどのくらいがよいと思いますか
（ 4,000円 5,000円 6,000円 7,000円 その他 円 ）
- ④ 事前・直前アナウンスについて、何かご要望、ご意見等ございましたらお書き下さい。
〔 〕
- ⑤ その他研修会運営に関するご意見、ご要望等
〔 〕

Ⅲ 教育講演について

① 今回の講演の内容についてご意見・ご感想をお書き下さい。

[]

② 今後、教育講演で聴いてみたい内容があればお書きください。

[]

③ グループワークについて

- 1) グループワーク (あったほうがよい 不要である どちらともいえない)
- 2) 時間配分は適切だったか (適切である 長い 短い どちらともいえない)
- 3) 個々の発表時間 (適切である 長い 短い どちらともいえない)
- 4) グループ人数 (多い・ 少ない・ 適切)
- 5) その他ご意見、ご要望 (グループワークについて)

[]

Ⅳ その他

- ① 研修会は教育活動の参考になった (なった ならない どちらともいえない)
- ② また研修会に参加したいと思いませんか (思う 思わない どちらともいえない)
- ③ 研修会全体に対するご意見、ご要望

[]

~~~~~  
最後に、今回の研修を振り返って、ご自身の感想などをお聞かせください。

[ ]

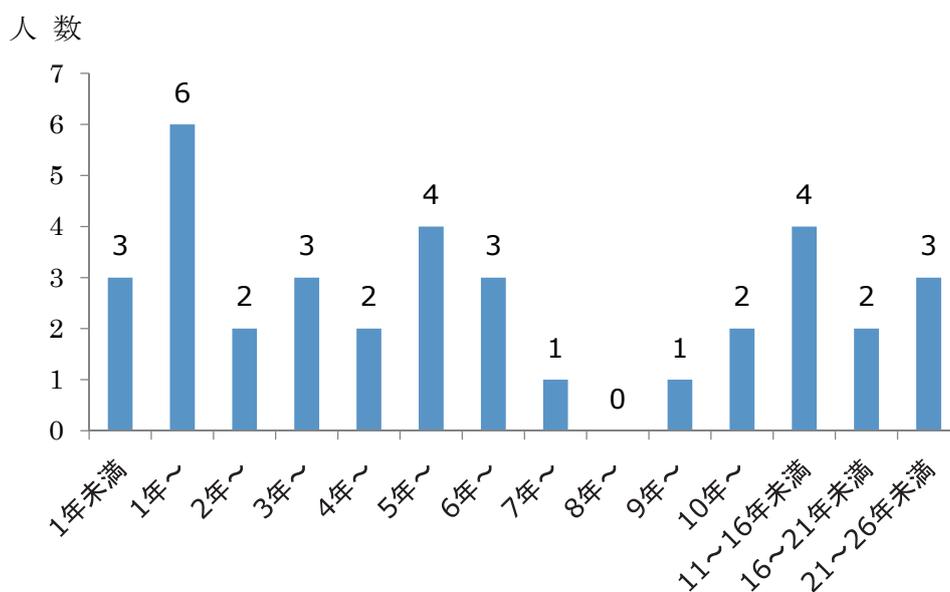
ご協力、ありがとうございました

## 第9回 全国視能訓練士学校協会 教員研修会 アンケート結果

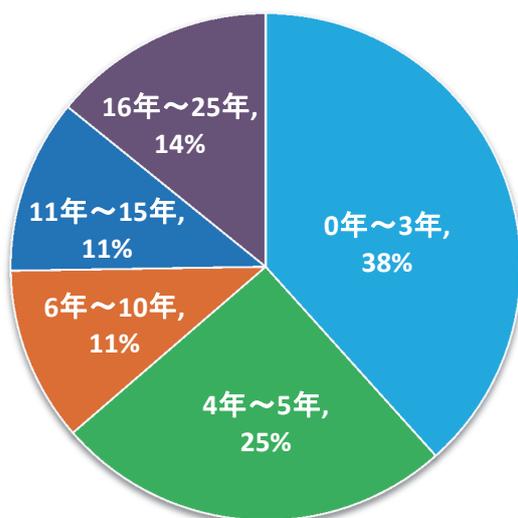
実施日：平成28年8月18・19日

参加者人数 36名（アンケート回答者数 36名）

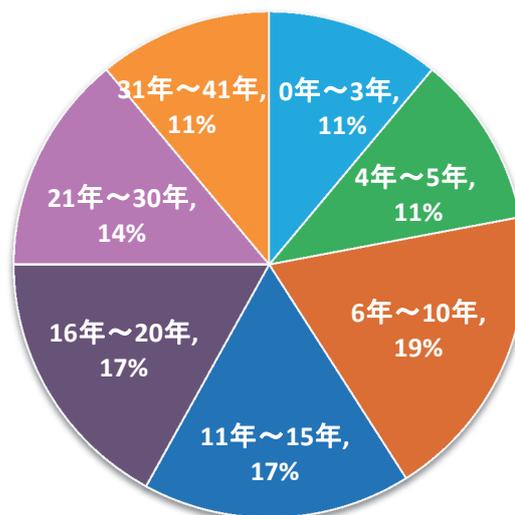
### 参加者教員歴



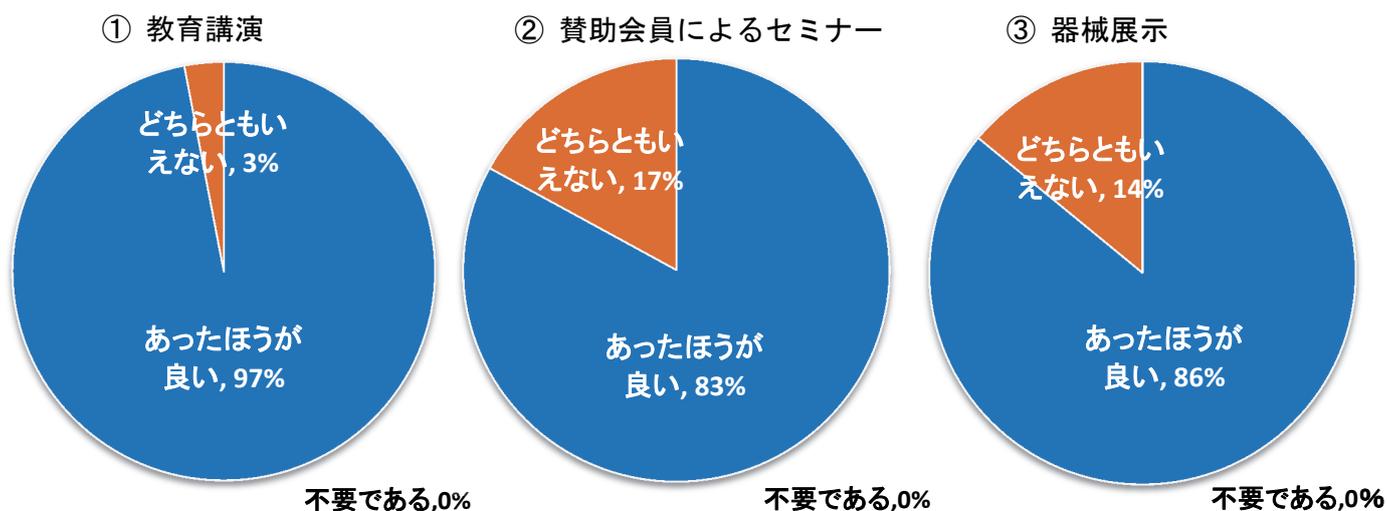
### 参加教員歴比率



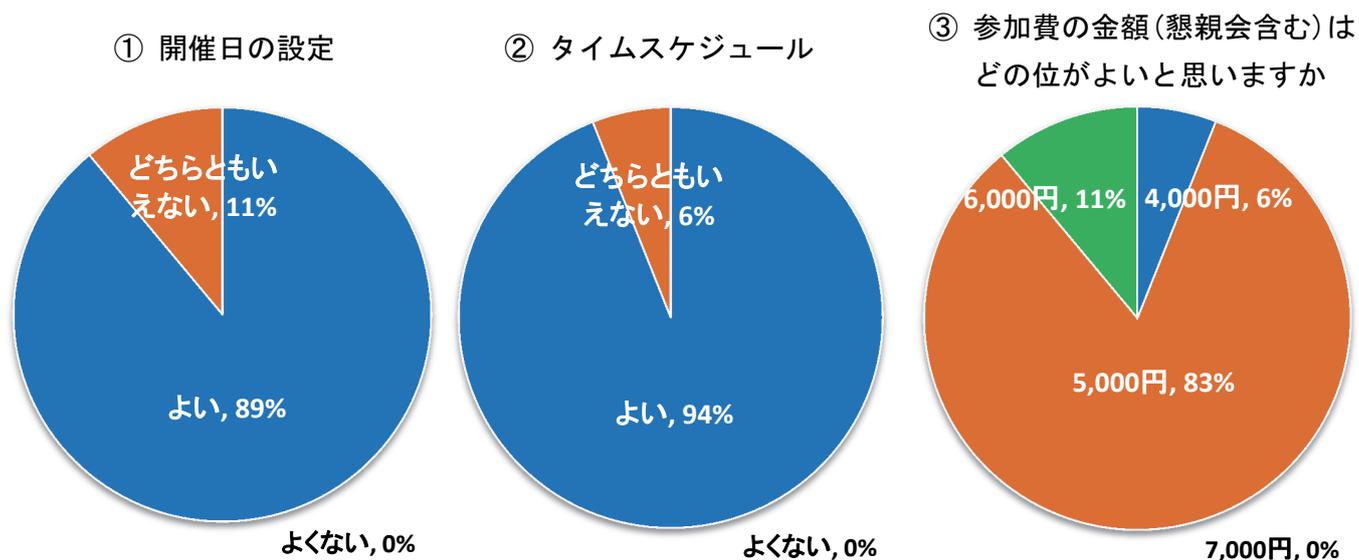
### 視能訓練士歴比率



## I. 研修会全体のプログラム構成について



## II. 研修会の運営について



|           |        | ご意見 (教員歴)                                                                                                                                                                                                                             |
|-----------|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 研修会運営について | ① 開催日  | <ul style="list-style-type: none"> <li>8月の後半～9月のあたま(1年)</li> <li>8月中～下旬(4年)</li> <li>夏休み(5年)</li> </ul>                                                                                                                               |
|           | ④ 事前案内 | <ul style="list-style-type: none"> <li>日時だけでも決定次第ご連絡いただきたいです。(3年)</li> <li>各代表者ではなく参加者に直接連絡が欲しい。(5年)</li> <li>ある程度話し合いの内容など事前に分かるような案内(抄録など)(7年)</li> <li>参加申込者宛てにメール送信していただくと助かります。(24年)</li> <li>何度もいただきありがとうございます。(25年)</li> </ul> |

|           |          | ご意見                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 研修会運営について | ⑤<br>その他 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員間での情報共有できる貴重な勉強会でした。(8か月)</li> <li>・ グループワークの時間をもう少し長めにとって頂きたい。業者の方に折角来ていただいているのもう少し機械展示の時間が欲しい。(1年)</li> <li>・ 他校の先生のお話しはとても参考になります。きめ細かい運営をありがとうございました。(4年)</li> <li>・ 面談など学力面以外の指導について改めて学ぶことができ良かったです。(5年)</li> <li>・ 各校の取り組みをもっと聞きたいと思います。(7年)</li> <li>・ 賛助会員のみならずにもたくさんご参加いただき、実りある研修になりました。(11年)</li> <li>・ 事前準備から当日運営と本当にお世話になります。ありがとうございます。(13年)</li> <li>・ 教育セミナーの時間が長いとワークショップの時間が足りない。(15年)</li> <li>・ 日常の業務に加えて、いつもきめ細やかなご準備を本当にありがとうございます。(20年)</li> <li>・ 教員経験年数の短い先生方の参加が増えたことは好ましいと思います。(提嶋先生の名司会に感心しました) (24年)</li> <li>・ 毎年関心のあるテーマを設定していただき、ありがとうございます。多くの養成校で共通した悩みや問題点があるのだと思いました。(24年)</li> </ul> |

### Ⅲ. 教育講演について

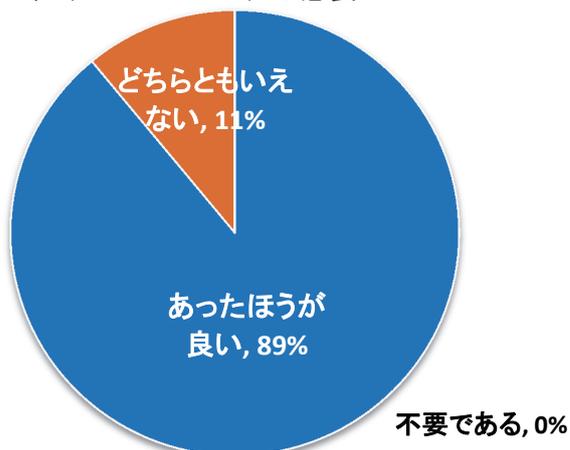
|                                                                               |                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">教育講演について</p> | <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">①<br/>こ<br/>意<br/>見<br/>・<br/>こ<br/>感<br/>想</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生カウンセリングの重要性が理解できた。(5 か月)</li> <li>・ 学生との関係性を考えていく上でとても参考になりました。(5 か月)</li> <li>・ 学生との関わり方、指導方法や学生の傾向などとても勉強になりました。(8 か月)</li> <li>・ 現在の学生像について大変勉強になった。(1 年)</li> <li>・ かゆい所に手が届く。正に聞きたかった内容でした。(1 年)</li> <li>・ 大変勉強になりました。不適応学生の進路・キャリア教育の話がとても参考になりました。(1 年)</li> <li>・ 学生指導について手探りでやっている状態だったので、今回の講演はとても勉強になりました。(1 年)</li> <li>・ 学生指導について悩むことが数多くあったのでとても参考になりました。学生面談時の傾聴力についてもとても勉強になりました。(1 年)</li> <li>・ 視能訓練士にとってコミュニケーション能力とは必ず必要になってくる能力だと思うのでそれも含めた内容の講演を聴くことができ、大変勉強になった。(1 年)</li> <li>・ 普段あまり考えない方向からの講演だったのでとても興味が持てました。(2 年)</li> <li>・ 今の学生にあった指導のやり方を教えていただきとても参考になりました。(2 年)</li> <li>・ とても勉強になりました。(3 年)</li> <li>・ 専門学校や大学でもメンタルケアが大切であると改めて感じました。社会に出るまでの最後の教育機関であることを意識し今後指導していきたいです。(3 年)</li> <li>・ 多くの学校で同じような悩みを抱えていることが分かりました。学習障害や低学力学生への関わり方や指導についてもっと知識を深めたいと思いました。(3 年)</li> <li>・ 大変有意義な内容でした。(4 年)</li> <li>・ 発達障害を抱えた学生は今後増えてくると思うので非常に勉強になる内容でした。(4 年)</li> <li>・ とても勉強になりました。(5 年)</li> <li>・ 現在抱えている学生(ゆとり世代)の特徴がよく分かった。(5 年)</li> <li>・ 学生の質の変化というものをここ数年で非常に感じるようになり、対応を苦慮している所がありました。現在の学生気質からそれを踏まえての対応までお話しいただき非常に勉強になりました。(5 年)</li> <li>・ とても勉強になりました。(6 年)</li> <li>・ ゆとり世代への対応が理解でき、今後の教育の参考になった。(6 年)</li> <li>・ まだまだ自分の中に足りないものがたくさんあるのかな？と思いました。指導においてこれはやっているな意識しているなというものもあったし、まだ出来ないものもあった。自己客観視が出来たと思います。(6 年)</li> <li>・ 大変有意義でした。ありがとうございました。褒めるのが大切と知っていましたが能力を褒めてはダメで努力を褒めるとのお話しは今後に生かします。(9 年)</li> <li>・ 多くの事例を知ることが出来て良かった。(10 年)</li> <li>・ 現在の学生の特質や対策について良くわかった。(11 年)</li> <li>・ 学生指導にとっても参考にありがとうございました。(13 年)</li> </ul> |
|-------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在の学生像（移り変わり）を把握できました。これを基に学生をしっかり理解しつつ、適切な指導につなげるよう努めたいと思います。（13年）</li> <li>・ 教育講演の時間を短縮した方が良いと思います。もう少し新しい事や事例について聞きたかった。（15年）</li> <li>・ 今の学生は～できないねなどと日常教員の間で話が飛び交う中、今回の川島先生の御講演でゆとり世代の学生像が明確にわかり、できないのではなく特徴としてとらえ、指導していくことの大切さがわかり、非常に良い内容でした。（20年）</li> <li>・ 内容が豊富で大変ためになりました。（24年）</li> <li>・ 日常遭遇する問題に直結する内容で学生指導に役立つ（24年）</li> <li>・ 良かった。もう少し時間が長くても良かったかもしれません。（25年）</li> </ul> |
|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

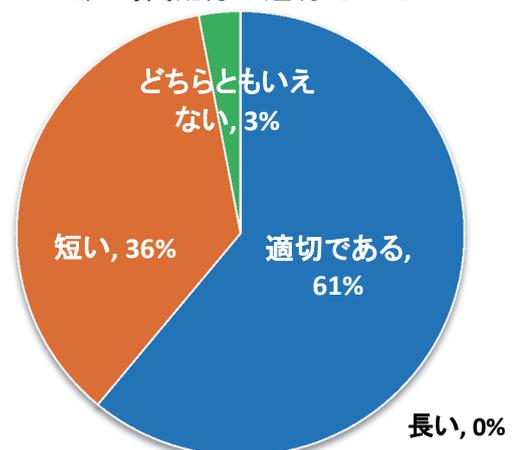
|          |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----------|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教育講演について | ② 今後聞いてみたい内容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生に対する教育手法・接し方などについて聴いてみたい。（4か月）</li> <li>・ 具体的な授業設計についての講演（8か月）</li> <li>・ 教員側のメンタルケアについて（1年）</li> <li>・ 指導方法、ティーチングスキル、クラス運営について（1年）</li> <li>・ 講義資料の作成方法（分かりやすい資料とはどんなものか）（1年）</li> <li>・ 勉強する習慣の付いていない学生に対するアドバイスの仕方（3年）</li> <li>・ 学生をやる気にさせる授業の方法、グループワークの進め方（4年）</li> <li>・ 少しずれますが、視能訓練士の認知度を高めるための広報活動方法などを聴いてみたい。（5年）</li> <li>・ 業界の求めている現在の人材像（6年）</li> <li>・ クラス運営、教員としてのステップアップ（6年）</li> <li>・ 学生のメンタルケアについて何回も聞いて勉強していきたいです。（6年）</li> <li>・ 今現在困っている事例を相談できるような企画（7年）</li> <li>・ SNS、教員としての知識、ストレスマネジメント（9年）</li> <li>・ 講義法、話術等について（10年）</li> <li>・ 臨床実習先、指導者との関わりについて（13年）</li> <li>・ OSCE、アクティブラーニング（20年）</li> <li>・ 人間関係、リーダーシップ（24年）</li> </ul> |
|----------|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### ③ グループワークについて

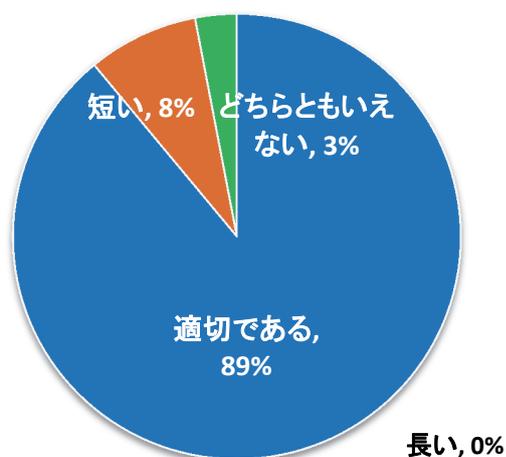
1) グループワークは必要か



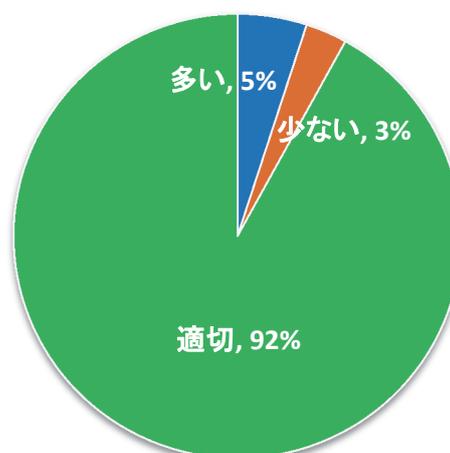
2) 時間配分は適切だったか



### 3) 個々の発表時間



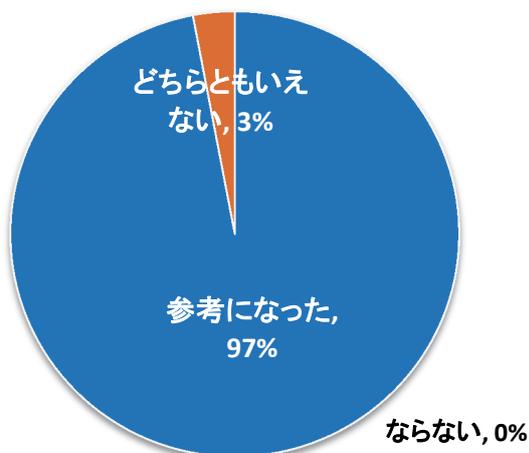
### 4) グループ人数



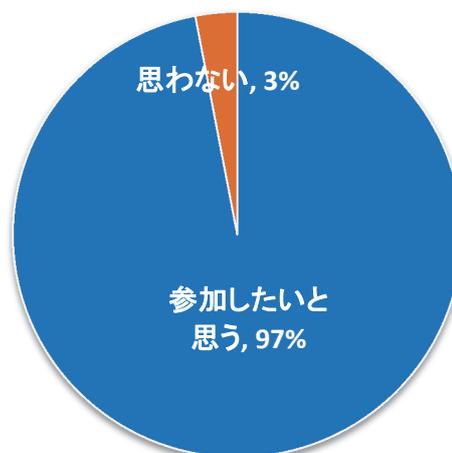
|             |       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| グループワークについて | 意見・要望 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ もう少し話し合いの時間が欲しかったです。(8 か月)</li> <li>・ 時間が短く感じました。(1 年)</li> <li>・ 先生方と直接意見を交わせる場が大変勉強になりました。(1 年)</li> <li>・ 様々な事例を聞くことが出来ましたし、他校ではどのように対応しているのかを知ることが出来て良かったです。(1 年)</li> <li>・ 様々なテーマに沿った内容でグループワークができ、多くの先生方の意見を聞くことが出来、大変良い機会になりました。(1 年)</li> <li>・ 広報、学生指導、OSCE、技術指導の方法(4 年)</li> <li>・ 2 日目にも最終調整の話し合う時間があり良かったです。(5 年)</li> <li>・ GW で課題(問題点)を挙げて話すのも良いが運営側からの問題提起→各 GW で様々な解決策が挙がるのも良いと思う。(5 年)</li> <li>・ スライド作成、発表に重点が置かれ、十分な意見交換が出来なかったように感じました。(6 年)</li> <li>・ PC 用のプロジェクターを各グループに欲しい。グループワーク、パワーポイントを作る時間をもう少し長くして欲しい。(6 年)</li> <li>・ 他施設の方のお話が聞けて良かったです。(9 年)</li> <li>・ もう少し時間があると良いように感じました。スライドまで作るとなると少し大変でした。(20 年)</li> <li>・ グループワーク発表の際、川島先生がテーマにあった適切なコメントを下されたことも良かったです。若い先生方がパワーポイントをまとめて発表される能力の高さに驚いています。(24 年)</li> </ul> |
|-------------|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

#### IV. その他

① 研修会は教育活動の参考になったか



② また研修会に参加したいと思いますか



|     |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| その他 | ③ 研修会全体への要望 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各校の取り組みが聞ける様な報告会など(7年)</li> <li>・ 懇親会の時間をもう少し短時間にしていただきたい。(10年)</li> <li>・ 少人数で運営されていて大変だったと思います。ご苦労様でした。(15年)</li> <li>・ 研修なので仕方ないのかもしれませんが、若い方が多くなり経験歴の長い方が少なくなってしまっているのが残念です。いろいろな御意見をうかがいたいと思っています。(20年)</li> <li>・ WGの皆さま、お疲れ様でした。(25年)</li> </ul> |
|-----|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| 今回の研修を振り返って、ご自身のご感想など                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループワークでは他の先生方の意見や考え方を聞いて良かった。持ち帰ってもう一度考え直したい。(5か月)</li> <li>・ 学生との付き合い方について様々な悩み、問題点があることを再確認させられた。今後の教育内容に生かしていきたいと思う。(5か月)</li> <li>・ とても勉強になりました。ありがとうございました。(8か月)</li> <li>・ 今後も参加したいと思います。よろしくお願い致します。(1年)</li> <li>・ 新人の初参加でしたがとても勉強になりました。ありがとうございます。(1年)</li> <li>・ 2日間お世話になりました。とても参考になりました。ありがとうございました。(1年)</li> <li>・ 初めての参加だったのですが大変楽しく受講することができました。臨床との違いにまだまだ慣れない点も多いですが、研修の内容をその日々の業務にフィードバックできるよう努力したいと感じました。(1年)</li> <li>・ 去年も参加させていただき、まだ視能訓練士としても教員としても未熟な私にとって大変勉強になる研修会になった。今回のテーマは私自身も日頃どうしようか検討していた内容でもあったので、今回学ばせていただいた内容を今後の教育につなげていきたい。(1年)</li> <li>・ 他校の先生方の考え方など色々な情報を聞ける機会はあまりないので、とても良いと思いました。(2年)</li> </ul> |

- ・ 他の学校でも同じような症例があり、悩んでいることを知り、各校の対策法や考えを聴く機会を得られ、参加して良かったと思います。(3年)
- ・ 他校の先生方からたくさんの刺激を受けることができました。また、自分の努力不足や違った角度からの考え方などに気付くことができました。たいへん実りの多い研修となりましたことを参加の先生方やWGの先生方に感謝いたします。(3年)
- ・ 今回GWがSNS対策でしたが、私自身意識が薄かったことを実感しました。また問題が発覚した際の対処方法も聞くことが出来とても参考になりました。(4年)
- ・ エアコンが少し強いと感じました。(5年)
- ・ 「このような問題、本校だけかも・・・」と思っていたことも他校でも同じような事例があり、共有することで色々な解決策を見つけることが出来ました。このような機会があることを非常に有り難く思います。ご準備、本当にありがとうございました。(5年)
- ・ 他校の学生指導などが聞けてとてもありがたかったです。他校も悩みは同じだとわかりました。(6年)
- ・ 他校の先生方と交流が持てて、様々な考え方が伺えて良かったです。教育講演も改めて考える機会となりました。お忙しい中、ご準備ありがとうございました。(6年)
- ・ 教員研修WGの皆さま、お忙しい中本当にありがとうございました。自分も含め若手の先生が多くなる中、視能訓練士として「品」を保ちながらやっていかななくてはならないのかと改めて感じました。(6年)
- ・ 運営していただいた先生方、ありがとうございました。(9年)
- ・ 学生生活を楽しく、有意義な時間として過ごしてほしいと思いながら、どのような指導言葉かけを行えばよいのか、なかなか自分一人では答えが出せない状況です。今回の研修会では、基本的な知識を知ることが出来ました。これからの現場で活用していこうと思いました。川島先生をはじめ運営委員の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。(10年)
- ・ いろいろな世代や地域の教員が集まれる貴重な研修会です。今後も更なる発展をされることを期待しています。WGの皆さまお疲れ様でした。(11年)
- ・ 他校の先生方と意見を交わすことが出来、非常に参考になりました。(13年)
- ・ WGの方、ご準備等大変お世話になりました。他校の先生方とも交流ができ、有意義な研修会でした。ありがとうございました。(13年)
- ・ 発表スライドは短い時間に大変良くまとめられていて、皆さんのレベルの高さを実感しました。(15年)
- ・ 実り多い研修会でした。昔と比べ全く違った学生に対しどう指導すべきかよくわからなくなっておりましたが、自分の中のモヤモヤがなくなり、スッキリして帰ることが出来ます。ありがとうございました。(20年)
- ・ ありがとうございました。(24年)
- ・ 教員経験年数、男女別、ワークのテーマなどよく考えられたグループ分け、グループテーマになっていて、WGの先生方のご尽力に心より感謝申し上げます。ランチオンセミナー、機械展示等も計画していただき内容豊富な教員研修会でした。ありがとうございました。(24年)
- ・ 参加して良かったです。(25年)

## 会長総評

教員の資質向上と教育指導内容の充実を図ることを目的に、平成20年度から始まった教員研修会ですが、今回で9回目を迎えることができました。皆様の暖かいご支援とご協力により、今年も全国の養成校から多くの方々にご参加いただき、盛会のうちに無事終了することができました。学生募集を始めとするさまざまな学校行事でお忙しい中、教員の派遣に快く応じていただきました養成校の関係各位には、この場をお借りして謹んで御礼申し上げます。

今回の教育講演は臨床心理士で滋慶トータルサポートセンターの川島 忍先生にお願いいたしました。第1部は学生および社会の変化、第2部は発達症の基礎理解、第3部はカウンセリング技法の学生支援への活用をテーマに3部構成でご講演いただきました。

以前の研修会でも学生のメンタルケアをテーマに取り上げましたが、我々教員は学生の指導で日々さまざまな問題に直面しており、その対応に苦慮しています。少子化、ゆとり教育、インターネットの普及に加えて、社会情勢や価値観の変化など学生を取り巻く環境は以前と様変わりしています。「今」の学生は叱られることに慣れておらず、競争意識が低く、言われたこと以上のことは実行しない指示待ちの姿勢が懸念されています。川島先生のご講演では傾聴力や仲間作りなどは自信があり、協調性は高いが、一方で、計画力や働きかけには自信を持ってない消極的な一面に加えて、集中力や自己肯定感が低く、将来に対して不安を抱いている現代学生の傾向を改めて知ることができました。さらに、自己肯定感が低い学生への指導では否定・命令・禁止は反抗・不安・自己不信を招き逆効果であり、傾聴・承認・共感しながら質問し対話するカウンセリング技法の活用が相互の信頼関係を深め効果的であることを学ぶことができました。また、教育指導を行う上で、能力をほめるのではなく、努力をほめることが意欲や達成度の向上につながることを再確認することができました。

講演に引き続いて、学習障害および成績不良者への対応、学生のメンタルケアと指導、SNS対策およびネットリテラシー、ハラスメント、臨地実習中の指導の5つのテーマに関して参加者全員が7班に分かれてグループワークを行い、翌日発表していただきました。今回のテーマは日々の学生指導に関わる身近な問題であり、過去の研修会に参加されている教員の方々が多いため、意見の集約やスライド作りは手慣れた様子でした。発表ではSNSにおけるリスク管理の重要性や、実習指導で自己客観視ができず対応力の乏しい学生に対して、ビデオ撮影や姿見で自己点検させ、OSCEの結果を共有する対策など日頃の指導で役立つ内容が多く、活発な討論が繰り広げられました。どの養成校でも抱えている問題は共通であり、他施設での事例やその対応策を知ることが経験年数の浅い教員にはもちろんのこと、ベテラン教員にとっても自らの指導や対処の仕方を顧みる上でとても参考になるものでした。

さらに、今回の研修会では賛助会員として過去最多となる5つの企業に出展していただき有益な最新情報を提供していただきました。出展いただいたティエムアイ、ジョンソン・エンド・ジョンソン、シード、ニデック、インサイトの5社にはこの場をお借りして深謝申し上げます。さらに、シードには白子症や先天無虹彩など羞明を訴える疾患で不可欠な「虹彩付きコンタクトレンズ」のセミナーを実施していただきました。一口に虹彩付きコンタクトレンズと言っても虹彩色のバリエーションやレンズの中心および周辺部の透明部の有無に加え、虹彩・瞳孔径が0.5mmステップに設定され、さまざまな選択肢のあることを知り、参加者一同、知識を深めることができました。

今回、研修会の会場として滋慶学園の本部をお借りすることができました。交通のアクセスを含めて利便性が高く、各種設備が整っており、申し分のない環境の中で2日間の教員研修を実施することができました。会場をご提供いただきました学校法人滋慶学園 常務理事の古島 暉大様、事務局長の居関 暁昌様をはじめ、学園の教職員の皆様に当協会を代表して心より御礼を申し上げます。

最後になりますが、企画から開催準備、報告書の取りまとめに至るまで、ご尽力いただいた教員研修ワーキンググループの諸氏に改めて深謝申し上げますとともに、本研修会が、今後も、より多くの方々にご参加いただき、活発な意見交換の場として益々発展していくことを期待しております。

全国視能訓練士学校協会

会長 新井田 孝裕

## 全国視能訓練士学校協会 加盟校一覧

|    | 施設名               | 学科名                          | 所在地       |
|----|-------------------|------------------------------|-----------|
| 1  | 吉田学園医療歯科専門学校      | 視能訓練学科                       | 北海道札幌市    |
| 2  | 北海道ハイテクノロジー専門学校   | 視能訓練士学科                      | 北海道恵庭市    |
| 3  | 東北文化学園大学専門学校      | 視能訓練士科                       | 宮城県仙台市    |
| 4  | 東北文化学園大学          | 医療福祉学部 リハビリテーション学科 視覚機能学専攻   | 宮城県仙台市    |
| 5  | 仙台医健専門学校          | 視能訓練士科                       | 宮城県仙台市    |
| 6  | 新潟医療技術専門学校        | 視能訓練士科                       | 新潟県新潟市    |
| 7  | 新潟医療福祉大学          | 医療技術学部 視機能科学科                | 新潟県新潟市    |
| 8  | 国際医療福祉大学          | 保健医療学部 視機能療法学科               | 栃木県大田原市   |
| 9  | 専門学校日本医科学大学校      | 視能訓練士科                       | 埼玉県越谷市    |
| 10 | 帝京大学              | 医療技術学部 視能矯正学科                | 東京都板橋区    |
| 11 | 東京医薬専門学校          | 視能訓練士科                       | 東京都江戸川区   |
| 12 | 首都医校              | 視能訓練士特科                      | 東京都新宿区    |
| 13 | 北里大学              | 医療衛生学部 リハビリテーション学科 視覚機能療法学専攻 | 神奈川県相模原市  |
| 14 | 平成医療短期大学          | リハビリテーション学科 視機能療法専攻          | 岐阜県岐阜市    |
| 15 | 愛知淑徳大学            | 健康医療科学部 医療貢献学科 視覚科学専攻        | 愛知県長久手市   |
| 16 | 名古屋医専             | 視能療法学科/視能訓練士特科               | 名古屋市中村区   |
| 17 | 洛和会京都厚生学校         | 視能訓練士学科                      | 京都市山科区    |
| 18 | 滋慶京都学園 京都医健専門学校   | 視能訓練科                        | 京都市中央区    |
| 19 | 大阪人間科学大学          | 医療福祉学科 視能訓練専攻                | 大阪府摂津市    |
| 20 | 大阪医専              | 視能療法学科                       | 大阪市北区     |
| 21 | 大阪滋慶学園 大阪医療福祉専門学校 | 視能訓練士学科                      | 大阪市淀川区    |
| 22 | 神戸総合医療専門学校        | 視能訓練士科                       | 兵庫県神戸市須磨区 |
| 23 | 川崎医療福祉大学          | 医療技術学部 感覚矯正学科 視能矯正専攻         | 岡山県倉敷市    |
| 24 | 松江総合医療専門学校        | 視能訓練士科                       | 島根県松江市    |
| 25 | 福岡国際医療福祉学院        | 視機能療法学科                      | 福岡市早良区    |
| 26 | 平松学園 大分視能訓練士専門学校  |                              | 大分県大分市    |
| 27 | 九州保健福祉大学          | 保健科学部 視機能療法学科                | 宮崎県延岡市    |
| 28 | 西日本教育医療専門学校       | 視能訓練士学科                      | 熊本県東区     |

平成28年度  
教員研修会報告書

平成29年3月発行

発行 全国視能訓練士学校協会

平成28年度事務局 平成医療短期大学  
リハビリテーション学科 視機能療法専攻  
〒501-1131 岐阜県岐阜市黒野180番地

( 許可なく複写転載を禁ず )